



Windows Server RDSH 環境を使用した 簡易インストールガイド

20.0

Parallels International GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel: + 41 52 672 20 30
www.parallels.com/jp

© 2023 Parallels International GmbH. All rights reserved. Parallels および Parallels ロゴは、カナダ、米国またはその他の国における、Parallels International GmbH の商標または登録商標です。

Apple、Safari、iPad、iPhone、Mac、macOS、iPadOS は、Apple Inc.の登録商標です。Google、Chrome、Chrome OS、Chromebook は、Google LLC の登録商標です。

その他のすべての社名、製品名、サービス名、ロゴ、ブランド、またすべての登録商標または未登録商標は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの所有者の独占的な財産となります。サードパーティに関わるブランド、名称、ロゴ、その他の情報、画像、資料の使用は、それらを推奨することを意味するものではありません。当社は、これらサードパーティに関わる情報、画像、素材、マーク、および他社の名称について所有権を主張するものではありません。特許に関するすべての通知と情報については、<https://www.parallels.com/jp/about/legal/>をご覧ください。

目次

はじめに.....	4
本ガイドの目的	4
制限事項	4
概要.....	5
検証環境の構成	5
その他の検証環境構成パターンの紹介	7
Parallels RAS サーバー、RDSH サーバーに対する 事前作業.....	8
Active Directory ドメインへの登録.....	8
検証用ユーザーアカウントの作成.....	8
RDSH サーバーに対する事前作業.....	9
リモートデスクトップサービスの有効化	9
RAS モジュールのインストール.....	14
インストールモジュールの入手.....	14
インストールの開始	15
ライセンスのアクティベーション	21
RDSH ホストへ RAS モジュールのインストール	24
RAS 管理コンソールから RDSH サーバーを追加する	29
デスクトップの公開設定	37
物理マシンからのリモート接続.....	43
RAS Client for Windows モジュールインターフェイスからのアクセス	43
RAS Client for HTML モジュールを使用したリモートアクセス	51

はじめに

本ガイドの目的

本ガイドは、Parallels Remote Application Server (以降 RAS) の評価を目的に、初めて環境を構築されようとしているお客様や、販売店のエンジニア様に、Windows Server RDSH 機能を利用したシンプルなシステム構成を利用した RAS 環境による Windows デスクトップ、もしくは Windows Server 上のアプリケーションウィンドウのリモート操作をお試しいただき体験いただくことを目的としております。

RAS 管理者ガイド (日本語) を、弊社 Web サイトに公開しておりますが、公開資料を補足する内容となっております。ぜひ、RAS 製品のシンプルで、かつ操作性の良いリモート アクセスを評価いただければ幸いです。

RAS 管理者ガイドを含むマニュアルの公開ページ
<https://www.parallels.com/jp/products/ras/resources/>

制限事項

本ガイドは、Parallels RAS Ver. 20 を利用しております。本ガイドのリリース後の製品バージョンアップにより、本ガイドに記載されている画面例と実際の画面とは異なる状況となる可能性がありますので、ご注意ください。

なお、本ガイドの内容は、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。評価の際は、是非、インストールメディアのバージョンを含め、本ガイドの最新バージョンをご使用されることを推奨いたします。

概要

本ガイドでは、Parallels® RAS を使用して Windows Server 2022 物理マシン 1 台（もしくは Windows 11 Pro 物理マシン 1 台）を使用した Windows Hyper-V 機能を使用します。その環境で実現できる最小限の仮想マシン環境を構成する方法について説明します。

検証環境の構成

仮想基盤（ハイパーバイザー）として、Hyper-V を使用します。仮想サーバーマシン環境を構成するコンポーネントのうち、サーバー側の以下コンポーネントは 1 台の物理マシン（⑤）上に構築します。

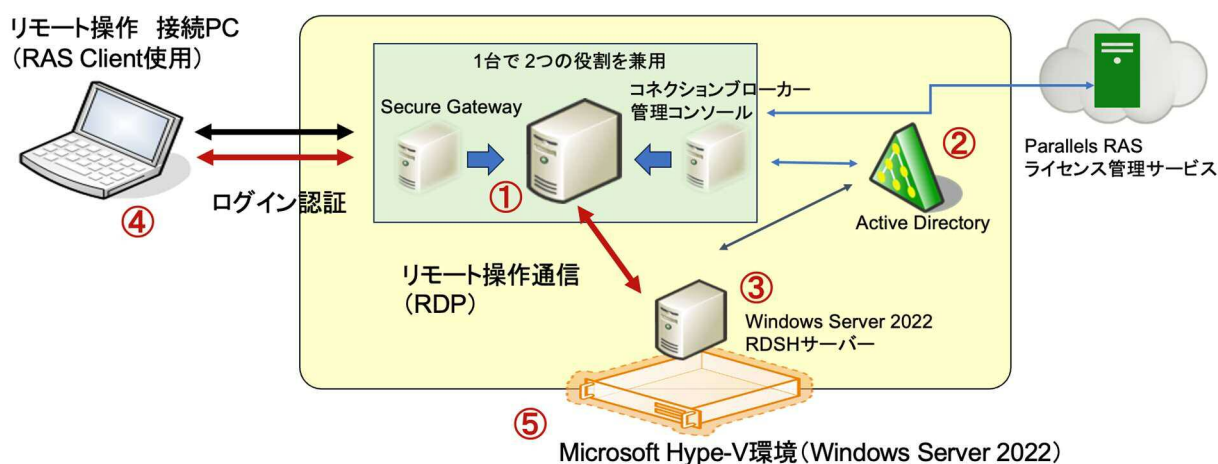
Active Directory サーバーを構築後、①サーバーマシン、③サーバーマシンは、作成した Active Directory ドメインに参加させます。

- ① RAS Secure Gateway + RAS Connection Broker 兼 RAS Console
- ② Active Directory
- ③ Windows Server 2022 RDSH 機能を使用、クライアント側のコンポーネントは、Windows OS の物理マシンを使用します。
- ④ リモート接続用マシン

RDSH検証環境イメージ

Hyper-Vを構成した1台のWindows Server 2022サーバー(Windows 11 Proも可能)マシン上に、3台の仮想マシンを作成します。

- ① Parallels RASコネクションブローカー+Secure Gateway+管理コンソール
- ② Active Directoryサーバー
- ③ 仮想デスクトップ用、および仮想アプリケーション用のWindows Server 2022マシン



仮想マシンの実行に必要なリソースが Hyper-V 環境に存在する場合、RAS Secure Gateway コンポーネントをインストールする Windows Server 2022 マシンと、RAS コネクションブローカーを実行する Windows Server 2022 マシンを分離した環境を構築し、冗長構成時など設定、運用なども検証されることをお勧めいたします。

注意： 本環境では、RAS ライセンスの認証（評価ライセンスであっても）のため、インターネットへアクセスできる環境が必要となります。

構成マシンの種類

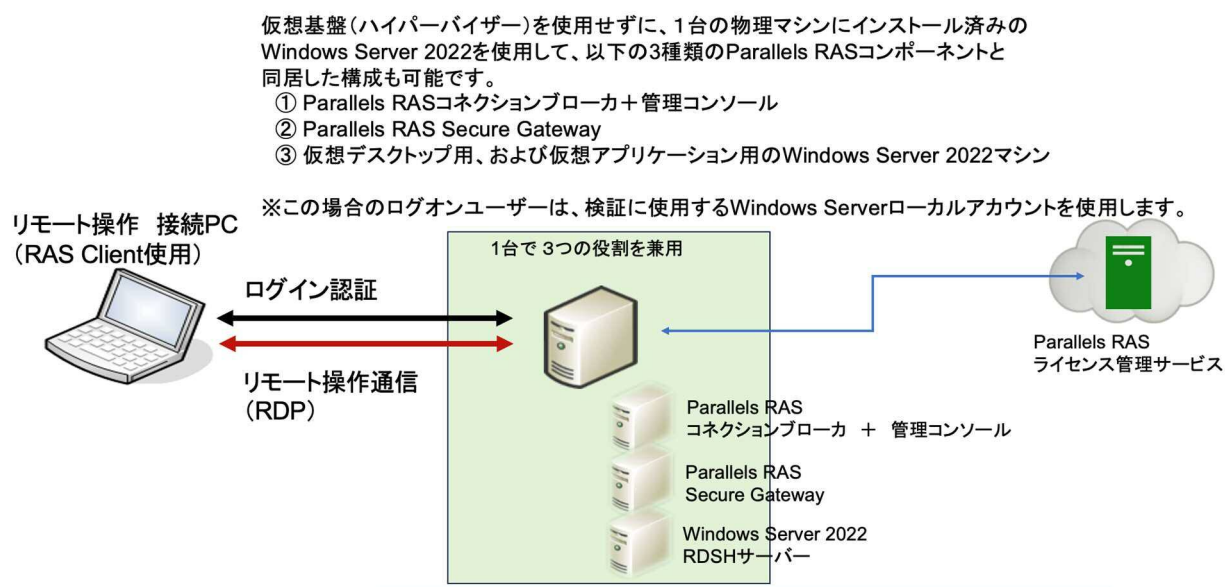
前述に説明済みの ①～④各マシンは、互いにネットワーク通信が可能であることを確認済みが前提となります。

マシン	OS	役割
Active Directory	Windows Server 2022	ユーザー認証、マシン登録
RAS Secure Gateway RAS Connection Broker 兼 RAS Console	Windows Server 2022	RAS 環境へのログオン入り口と、接続誘導、設定の保持、管理コンソールの 3 つのコンポーネントを同居
Windows Server RDSH 機能マシン	Windows Server 2022	仮想デスクトップの公開 仮想アプリケーションの公開
リモート接続検証用 物理マシン	※本ガイドでは、 Windows マシンを使用。 任意の OS も利用可能	ユーザーが Parallels Client を使用し、仮想デスクトップにリモート接続するための物理マシン
仮想基盤を構成する物理マシン (ハイパーバイザー)	Windows Server 2022 (Windows 11 Pro でも可能)	仮想基盤を構成

その他の検証環境構成パターンの紹介

RAS 環境は、仮想環境（ハイパーバイザー）を利用する環境以外に、物理マシンのみの環境でも動作が可能です。仮想環境を構築するマシン性能を利用できない場合、1 台もしくは数台の物理マシンを用意して、そのマシン環境に、Windows Server 2022 をインストールして検証することも可能です。

物理マシン1台で構成する検証環境イメージ



上記の例では、1 台の Windows Server 2022 物理マシンを使用して、RAS 環境を構築する例となります。本格的な運用で、上記の構成を採用することは、推奨していません。RAS 環境は、Active Directory が存在しない環境でも、サーバーローカル環境に登録されたユーザーアカウントを使用してリモートアクセス環境を構成することができます。

ですが、上記構成は、あくまでも、動作検証用だとしてご理解ください。

ログインユーザーのリモートセッションを実行する RDSH 機能と、RAS 運用に必要なコネクションブローカーと Secure Gateway を同居する場合、サーバー全体の負荷が高くなった場合、想定していた同時ユーザー数を正しく動作することができない可能性がありますし、リソース消費が多い場合、動作全体が不安定となる場合もあります。

実運用を想定した場合は、Parallels RAS 環境を構成する上記図の①、②、③は、それぞれ別の仮想マシンとして、別々に構成することを推奨いたします。

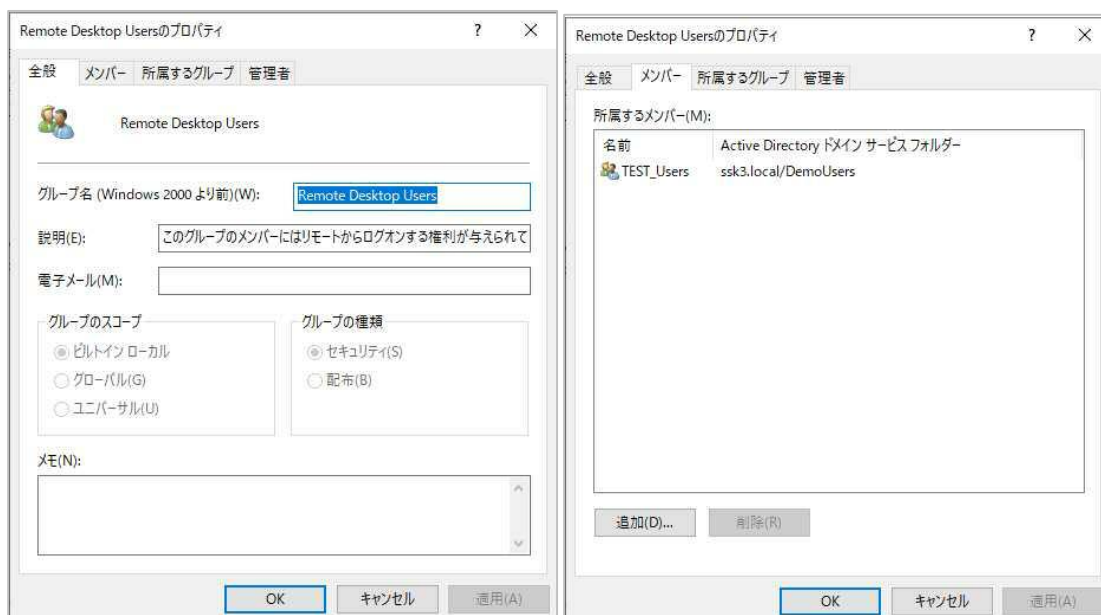
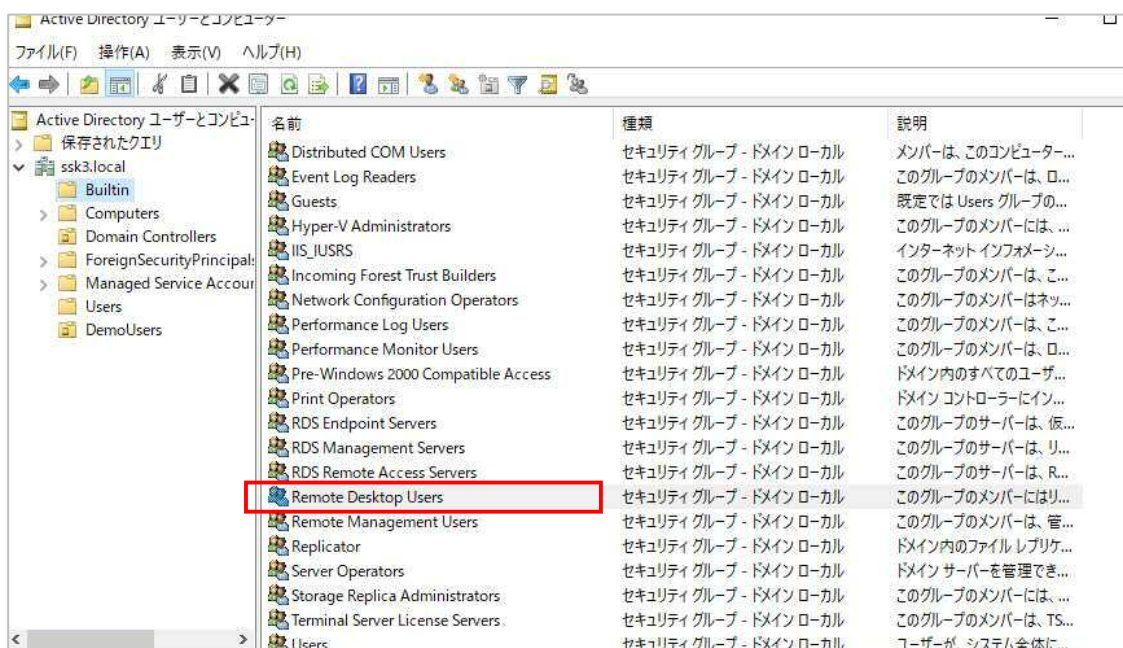
Parallels RAS サーバー、RDSH サーバーに対する事前作業

Active Directory ドメインへの登録

1. 検証環境に使用する 2 台の Windows Server 仮想マシンを、Active Directory ドメインに登録します。

検証用ユーザーアカウントの作成

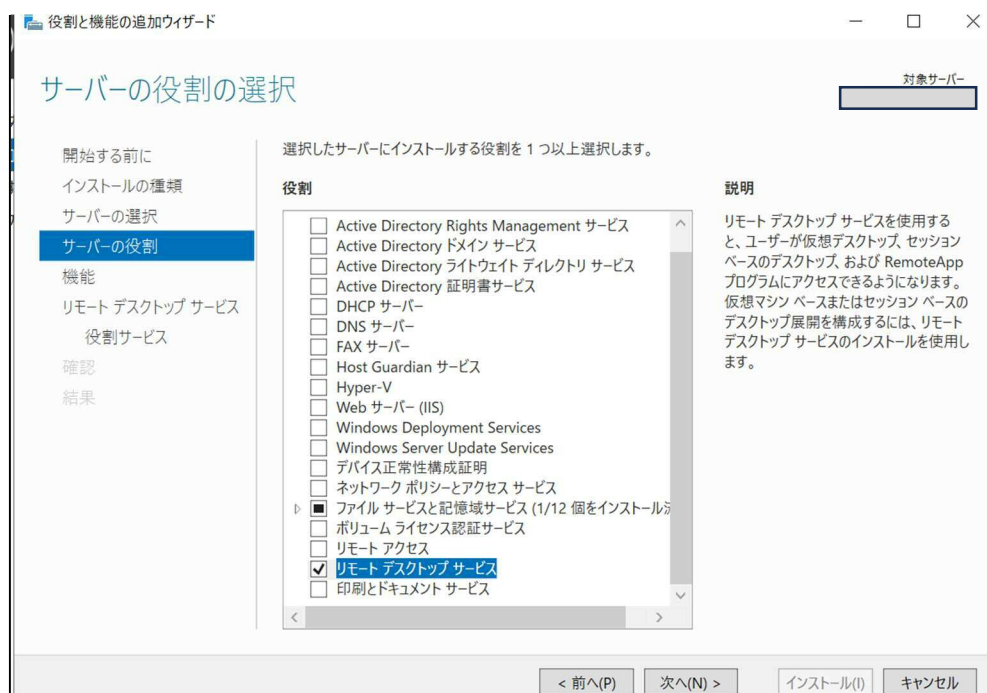
1. 検証用ユーザー アカウントは、Active Directory 環境を使用する場合、ドメインコントローラに構成済みの Remote Desktop Users に所属するよう定義をします。



RDSH サーバーに対する事前作業

リモートデスクトップサービスの有効化

1. RDSH サーバーにドメイン管理者権限でログインします。次にサーバーの役割として、「リモートデスクトップサービス」を選択して有効にします。



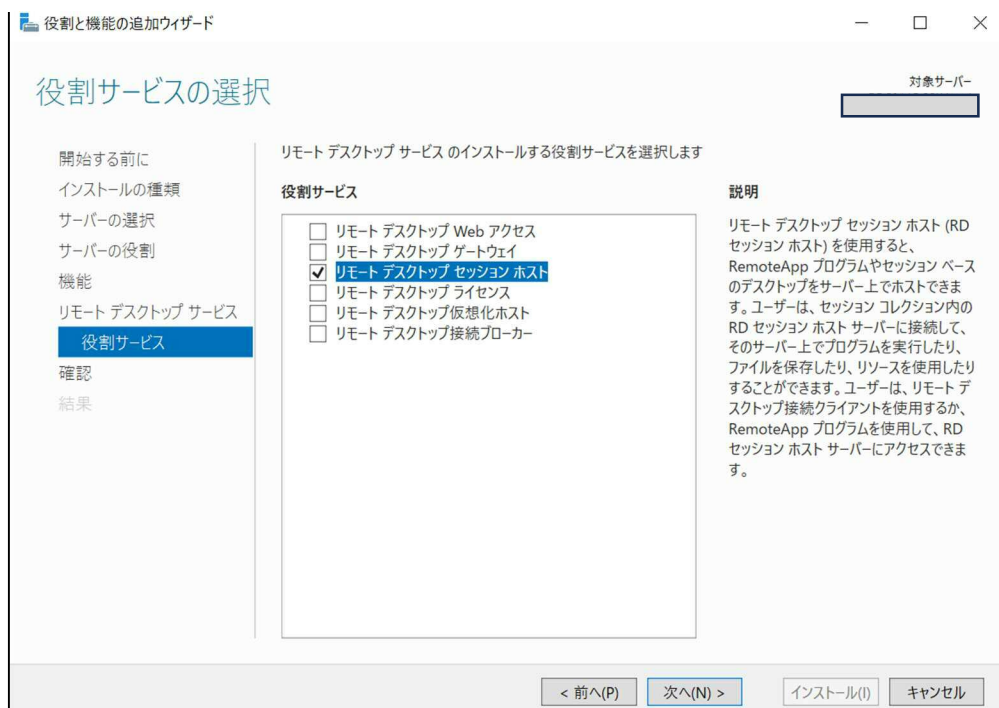
2. リモートデスクトップサービスのリストの中から、「リモートデスクトップセッションホスト」のみ選択します。



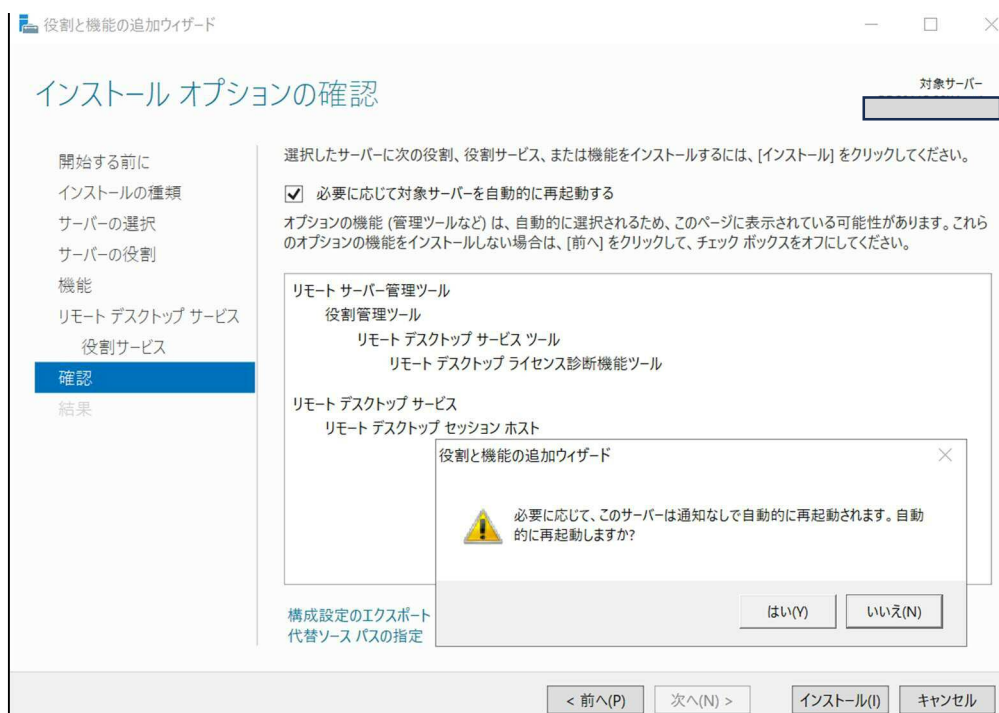
1. 役割と機能の追加ウィザードが開始されます。「機能の追加」を選択して、先に進みます。



2. 役割サービスリストの中、「リモートデスクトップセッションホスト」にチェックが入力されていることを確認して、「次へ」進みます。



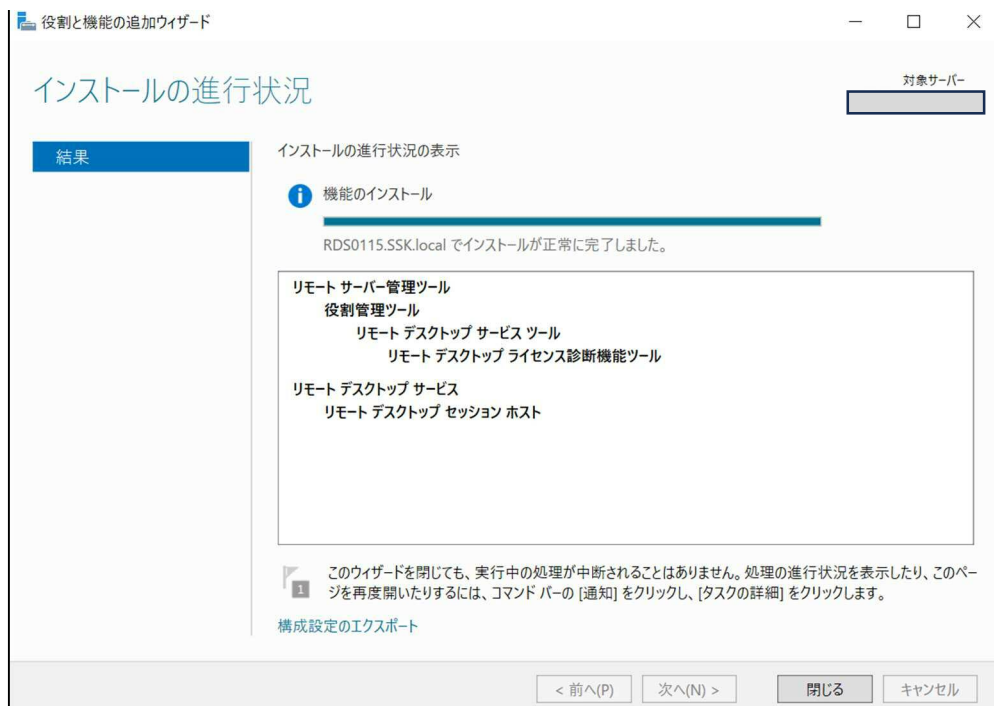
3. インストールオプションを確認します。「必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する」にチェックを入れ、自動的に再起動するか、確認されますので、「はい」を選択します。



4. 機能のインストールが開始されます。

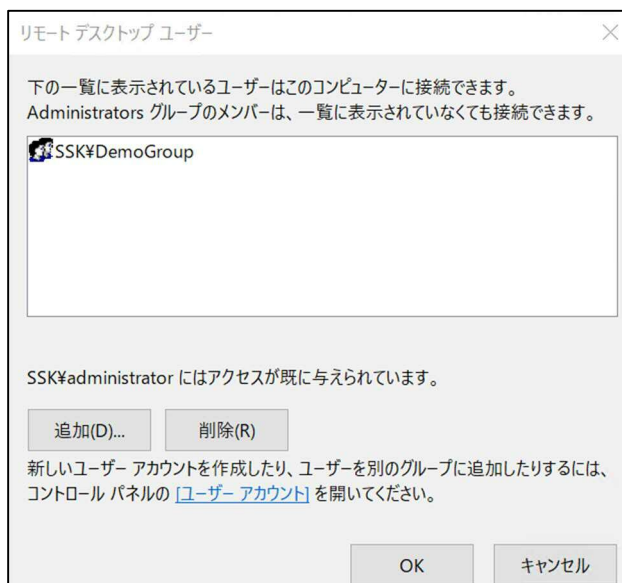


5. 機能のインストールが完了しましたら、ウィザード画面を閉じます。



6. 仮想デスクトップ用マシンでは、[リモート デスクトップ接続] を有効にし、検証用ユーザー アカウント、ユーザー グループに [リモート デスクトップ接続] を許可する。

注：この設定をしなければ、ユーザー ログオン時に、0X400000E NOT Authorized Remote login が出力されます。



RAS モジュールのインストール

インストールモジュールの入手

以下 URL へアクセスし、「Parallels Remote Application Server」のリンクをクリックし、インストールモジュールをダウンロードします。

<https://www.parallels.com/jp/products/ras/download/links/>

Parallels RAS (Remote Application Server)

概要 新機能 製品資料

今すぐ購入

Core Server Component

Parallels Remote Application Server The main server setup.	Parallels Remote Application Server	Change Log
---	-------------------------------------	------------

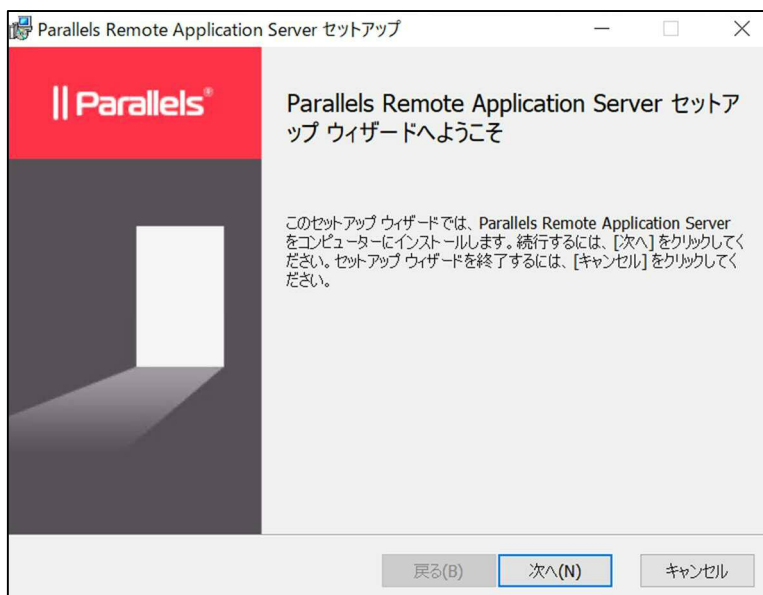
Client Installation File

Windows	Mac	Linux	iOS	Android	Chrome
MSI installers			Parallels Client (Windows) 32-bit Setup Parallels Client (Windows) 64-bit Setup Parallels Client (Windows) ARM64 Setup		Change Log
Other installers			Windows Client Basic 32-bit - zip Windows Client Basic 64-bit - zip Windows Client Basic ARM64 - zip Windows Client Basic 32-bit - self extracting Windows Client Basic 64-bit - self extracting		Change Log

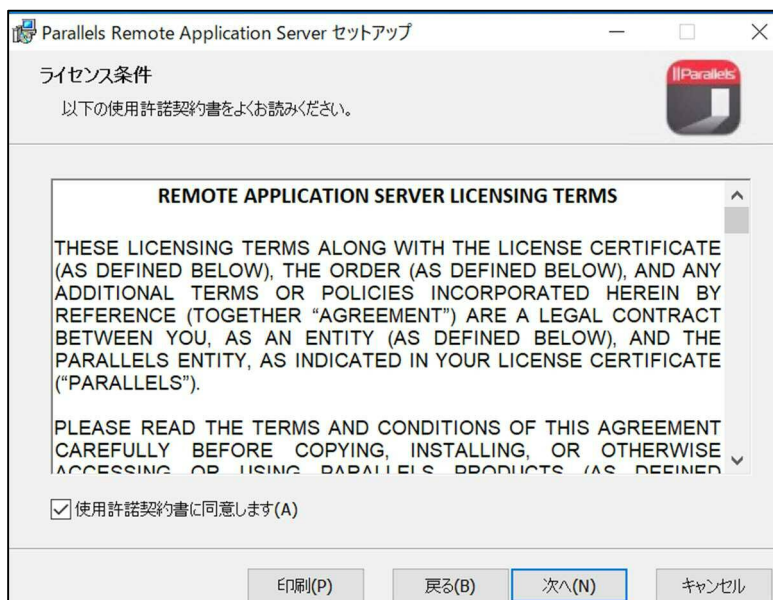
インストールの開始

本資料では、RAS Connection Broker 兼 RAS 管理コンソール、Secure Gateway コンポーネント兼務する仮想 Windows Server 2022 マシンを使用します。ダウンロードしたインストールモジュールを格納します。

1. ダウンロードしたモジュールを実行し、「セットアップウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



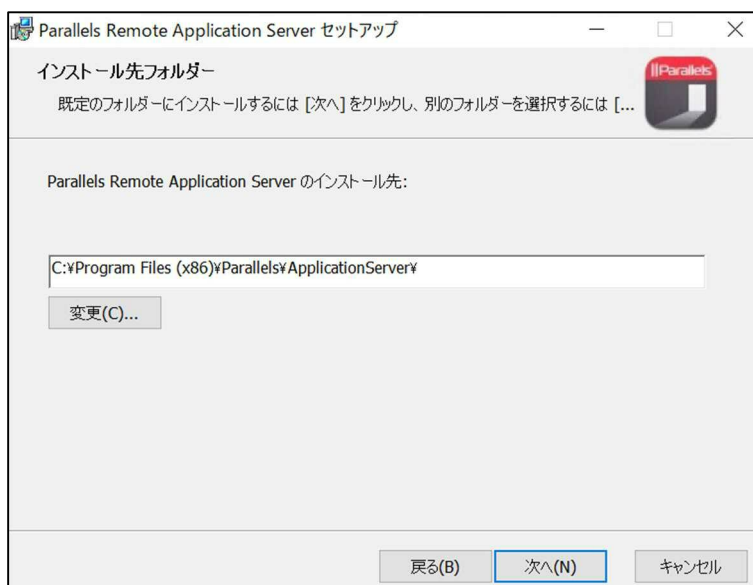
2. 「使用許諾契約書」の画面が表示されたら、「使用許諾契約書に同意します」をチェックし「次へ」をクリックします。



3. 「カスタマーエクスペリエンスプログラム」の画面が表示されたら、「無効」を選択します。



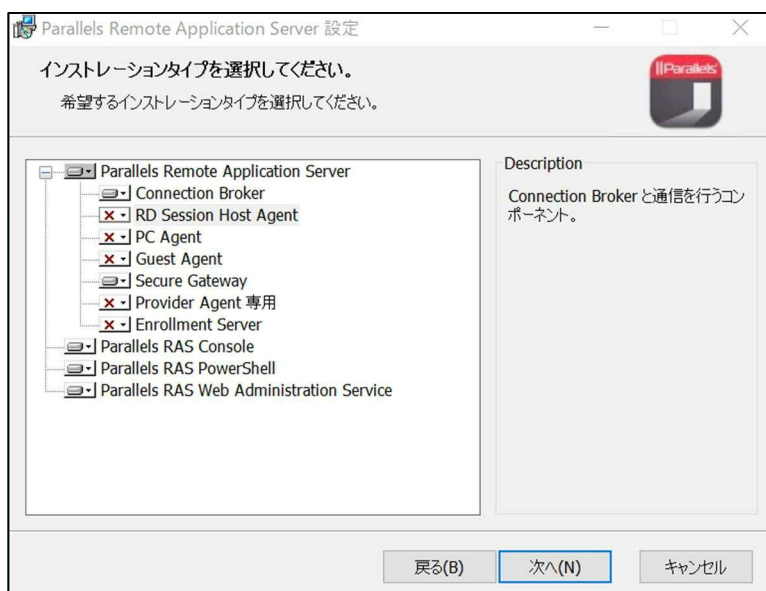
4. 「インストール先フォルダー」の画面が表示されたら、デフォルトのまま変更せず、「次へ」をクリックします。



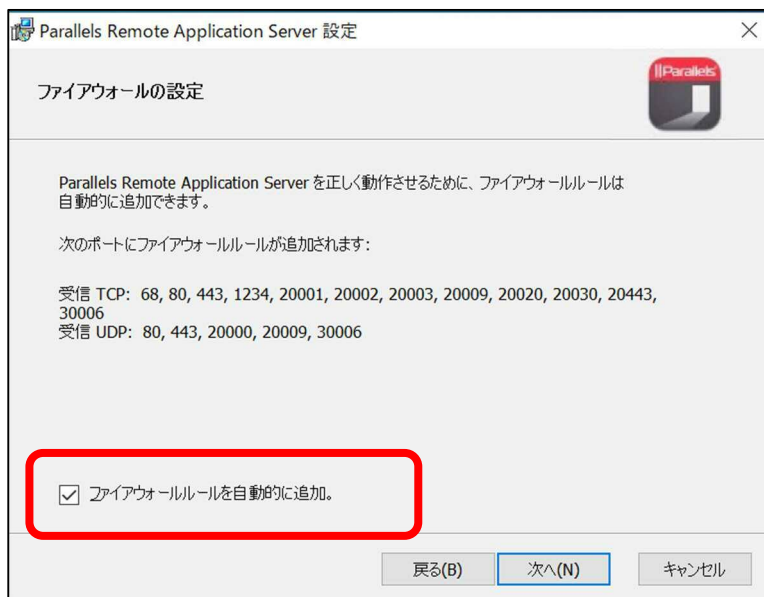
5. 「インストールタイプを選択してください。」の画面が表示されたら、「カスタム」を選択し、「次へ」をクリックします。



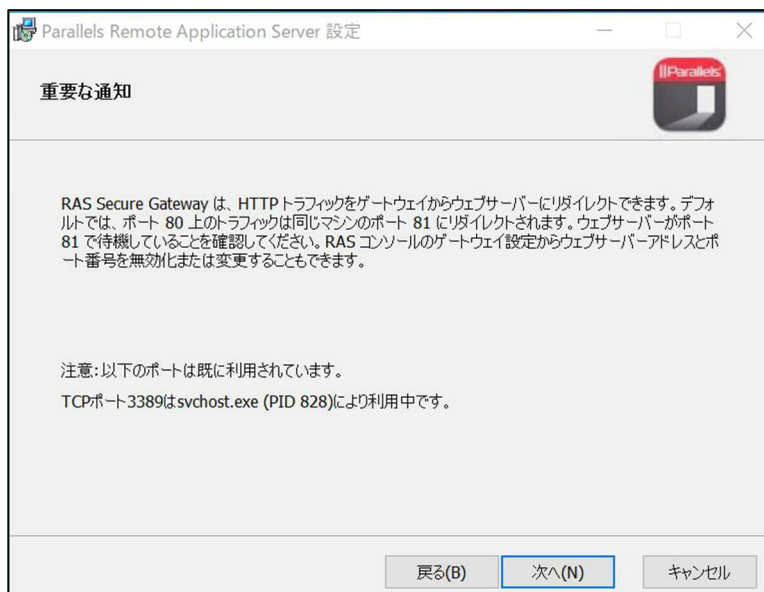
6. インストールするコンポーネントを選択します。
- デフォルトでは、「RD Session Host Agent」が選択されていますが、本資料で構成する環境では、別の仮想マシンに定義しますので、チェックを外します。
- 「Connection Broker」、「Secure Gateway」、「Parallels RAS Console」の3つが最低限、選択されている状態で、「次へ」をクリックします。



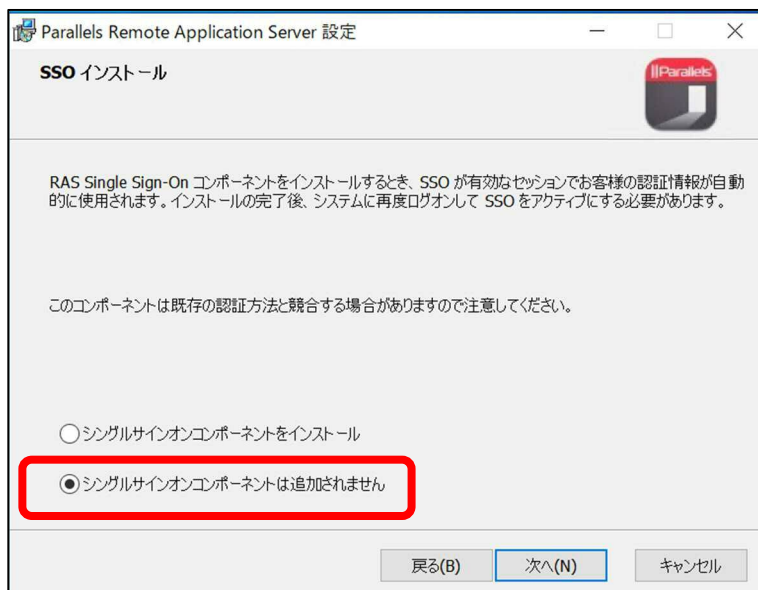
- 「ファイアウォールの設定」の画面が表示されたら、「ファイアウォールルールを自動的に追加」をチェックし、「次へ」を押下します。



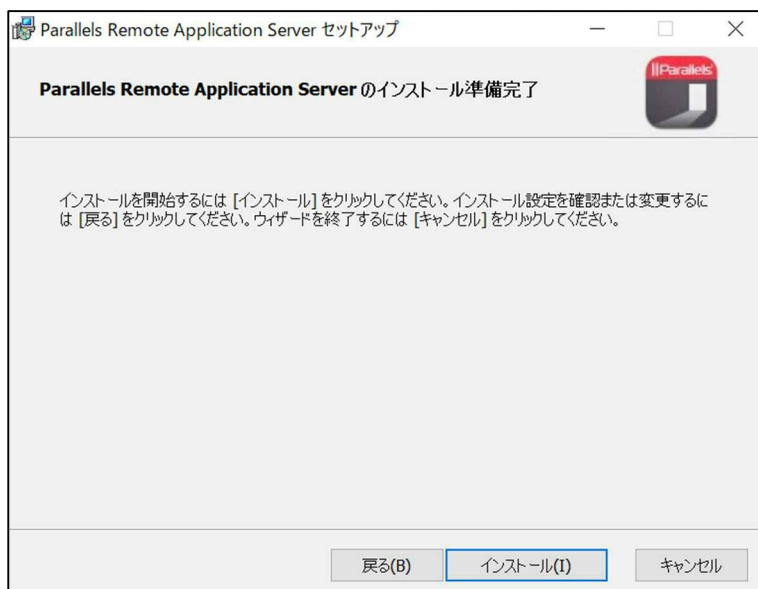
- 「重要な通知」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



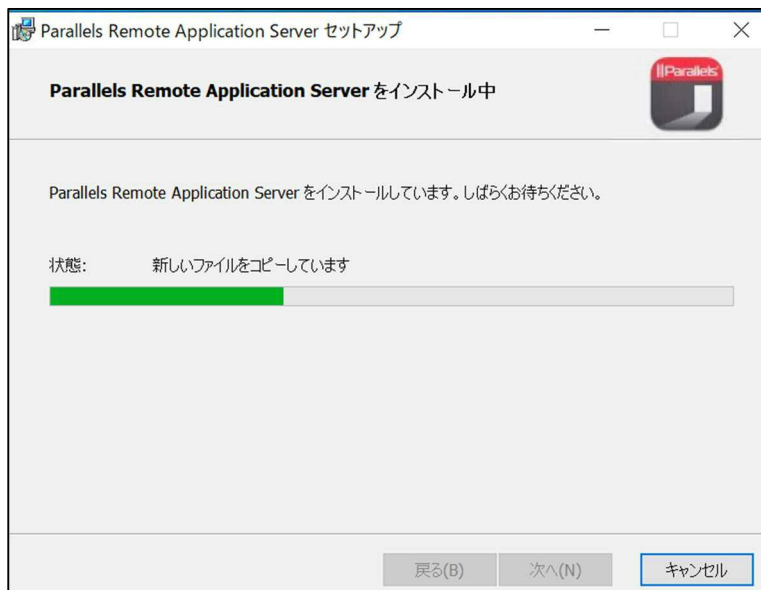
9. 「SSO インストール」の画面が表示されたら、「シングルサインオンコンポーネントは追加されません」をチェックし、「次へ」を押下します。



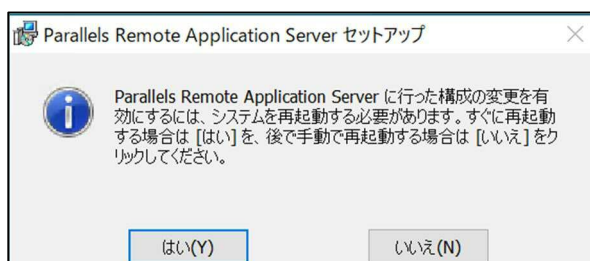
10. 「インストール準備完了」の画面が表示されたら、「インストール」ボタンを押下します。



11. 「インストール中」の画面が表示され、インストールが開始されます。「セットアップウィザードが完了しました」の画面が表示されたら、「デスクトップ管理者コンソールを起動する」をチェックし、「完了」ボタンを押下します。

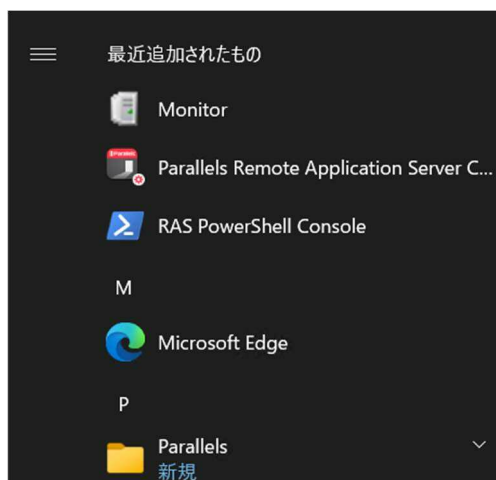


12. マシンの再起動が要求されますので、それに従い、「はい」をクリックします。

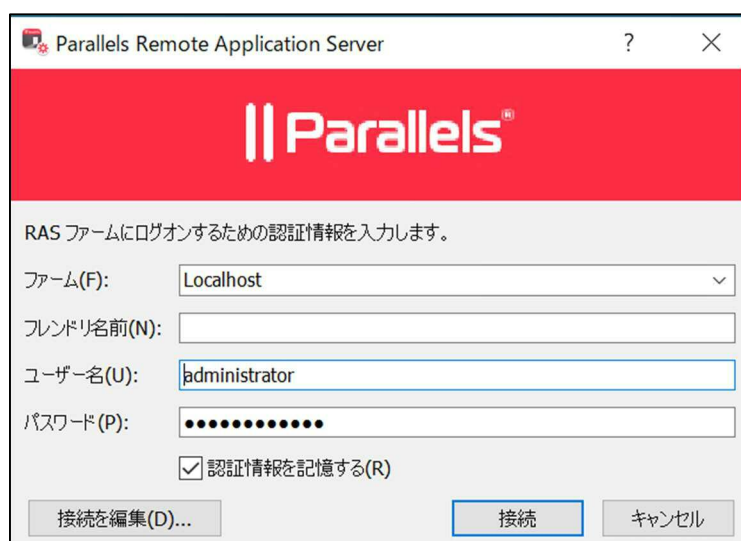


ライセンスのアクティベーション

1. Connection Broker、Secure Gateway、RAS コンソールをインストールしたマシンを、そのまま操作します。
システム再起動後、RAS コンソールを起動します。



2. ログイン画面が出力されます。「ファーム」にサーバーホスト名もしくは「Localhost」と入力し、ユーザー名にマシンのローカル管理者権限を持ったユーザー名とパスワードを入力し、「接続」ボタンをクリックします。



3. 「Parallels ビジネスアカウント」のログイン画面が表示されたら、先に Parallels ビジネスアカウントとして、登録済みのメールアドレスとパスワードを入力し、「サインイン」ボタンをクリックします。

※もし登録がされてない場合は、「登録」ボタンより登録することも可能です。



サインインして、Parallels RAS をアクティベートします

Parallels

Parallels RAS をアクティベートするため、Parallels ビジネスアカウントの資格情報を入力してください。Parallels ビジネスアカウントをお持ちでない場合は、登録する必要があります。

メール(E):

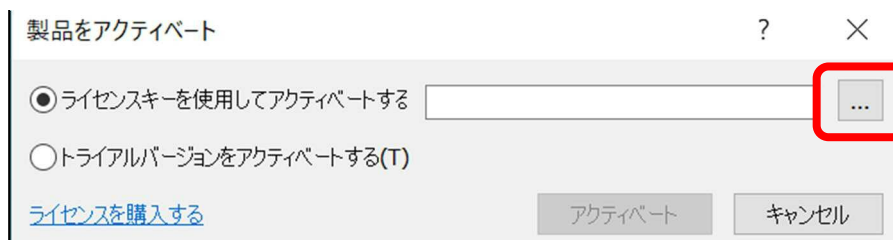
パスワード(P):

[パスワードをお忘れの](#)

登録(R)... サインイン(S) キャンセル

4. 「製品をアクティベート」の画面が表示されたら、「ライセンスキーを使用してアクティベートする」を選択し、「...」ボタンを押下して、ご利用になるライセンスキーを選択するか、ライセンスキーをまだ登録されていない場合は、直接ライセンスキーを入力し、「アクティベート」ボタンを押下します。

※30 日間有効なトライアルライセンスを使用する場合は、「トライアルバージョンをアクティベートする」を選択してください。



製品をアクティベート

☒ ライセンスキーを使用してアクティベートする ...

☐ トライアルバージョンをアクティベートする(T)

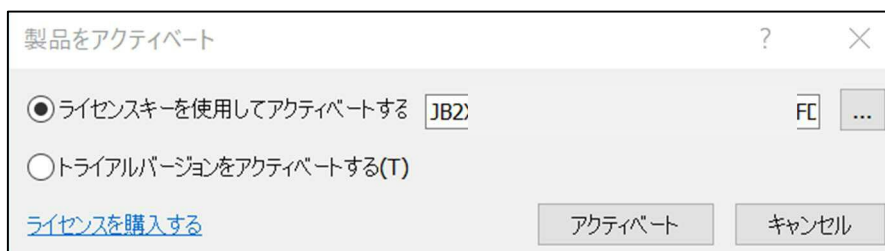
[ライセンスを購入する](#) アクティベート キャンセル



ライセンスキーを選択

ライセンスキー	タイプ	数量	状態	前回使用...	有効期限
JB2	サブスクリ...	5	使用中	RAS001	
JB2	トライアル	50	有効期限...	RAS001-PA	
JB2	サブスクリ...	1	利用できます		

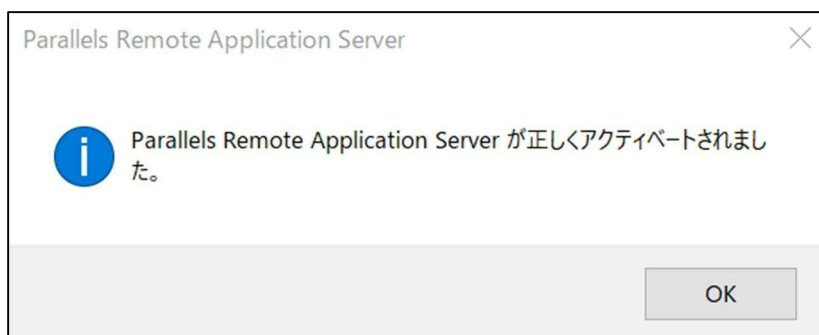
選択 キャンセル



5. 「アクティベート」ボタンをクリック後、以下のようなアラート画面が表示される場合がございます。「OK」をクリックし、画面を閉じてください。



6. 「正しくアクティベートされました」の画面が表示されたら、「OK」を押下し、画面を閉じてください。



7. RAS コンソールが出力されます。

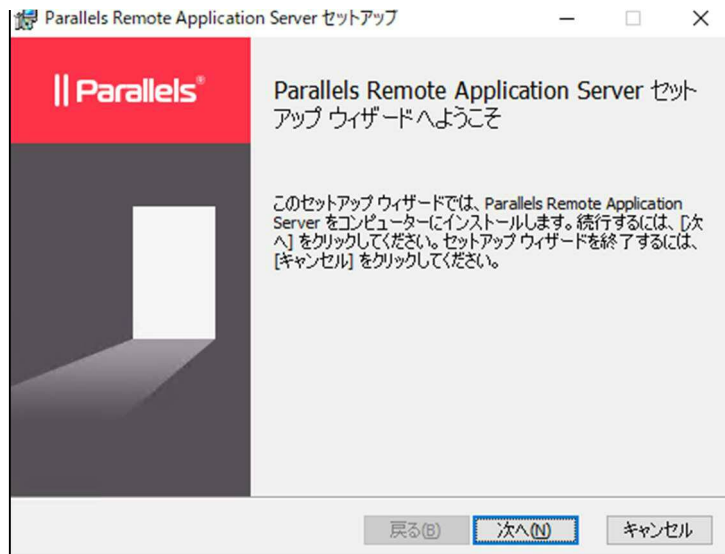


RDSH ホストへ RAS モジュールのインストール

まず、事前作業として、RAS モジュールをインストールする前に、Windows Server 上でリモートデスクトップサービス (RDSH) を提供するサーバーの役割を有効にします。

この RDSH を利用することで、ユーザーは、Windows Server 上のデスクトップ環境や、アプリケーションを複数ユーザーが同時にアクセスして利用できるようになります。

1. RDSH サーバーに作業を移し、Parallels 社サイトよりダウンロードしたインストールモジュールをコピーします。そして、インストールモジュールを管理者権限で実行します。「セットアップウィザード」が出力されますので、「次へ」をクリックします。



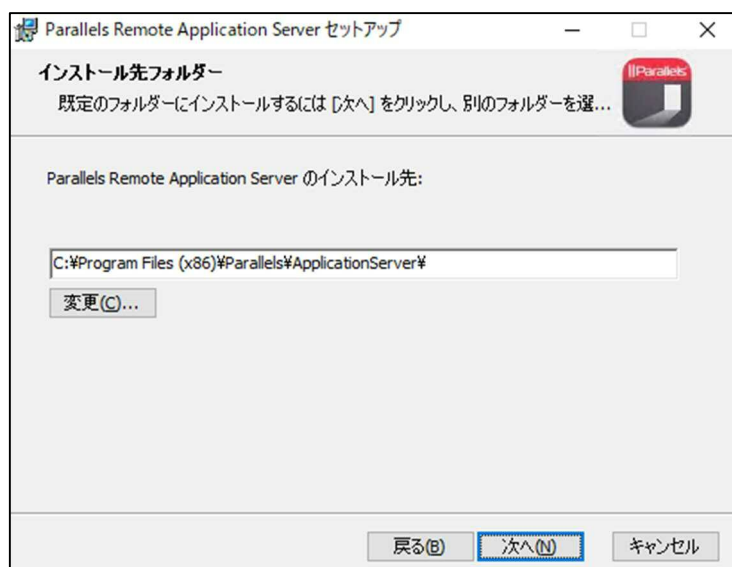
2. 「使用許諾契約書」の画面が表示されたら、「使用許諾契約書に同意します」をチェックし、「次へ」をクリックします。



3. 「カスタマーエクスペリエンスプログラム」の画面が表示されたら、「無効」をクリックします。



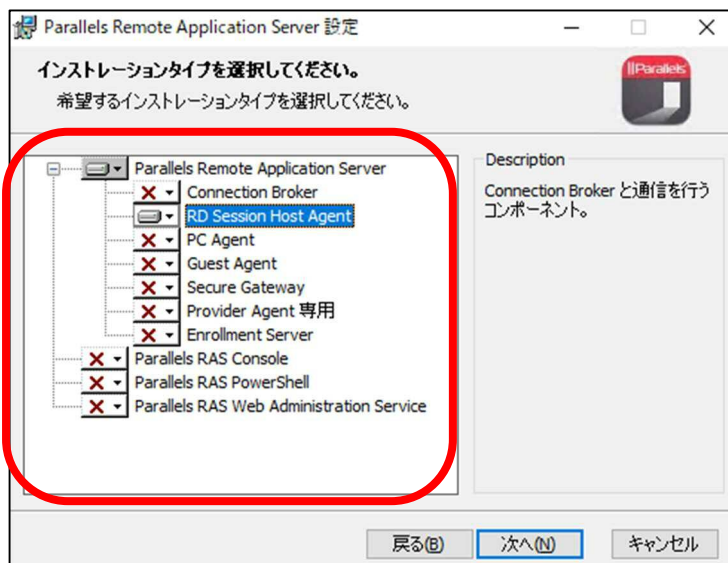
4. 「インストール先フォルダー」の画面が表示されたら、デフォルトのまま変更せず、「次へ」をクリックします。



5. 「インストールタイプを選択してください。」の画面が表示されたら、「カスタム」を選択し、「次へ」をクリックします。



6. 次の画面で、「RAS RD Session Host Agent」を「ローカルハードドライブにすべてインストール」を選択し、それ以外は「インストールしない」を選択し、「次へ」を押下します。



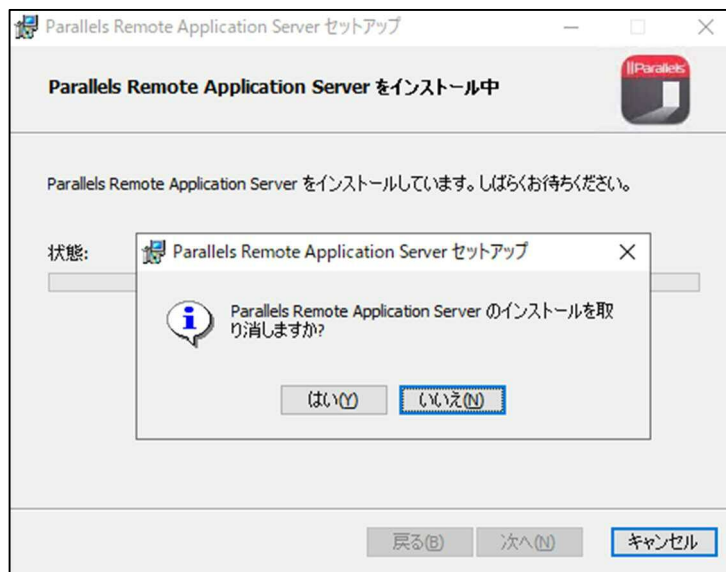
7. 「ファイアウォールの設定」の画面が表示されたら、「ファイアウォールルールを自動的に追加」をチェックし、「次へ」をクリックします。



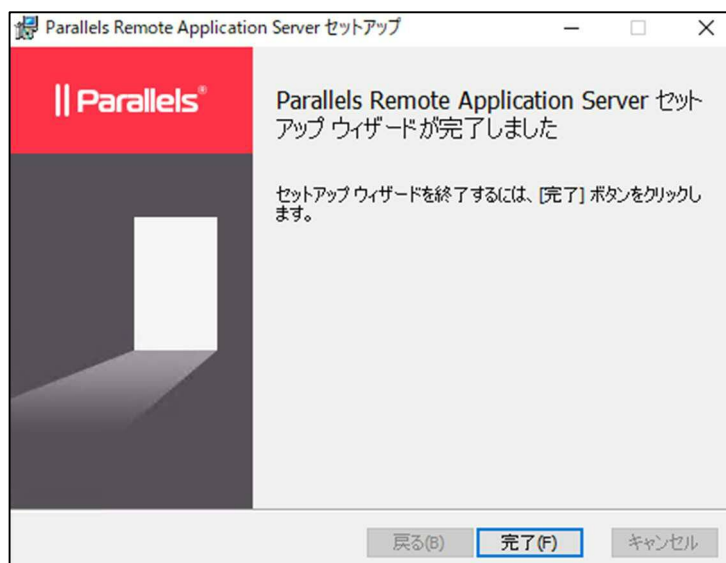
8. 「インストール準備完了」の画面が表示されたら、「インストール」ボタンをクリックします。



9. 「インストール中」の画面が表示され、インストールが開始されます。
インストールの取り消しの確認画面が表示されたら、「いいえ」ボタンをクリックします。



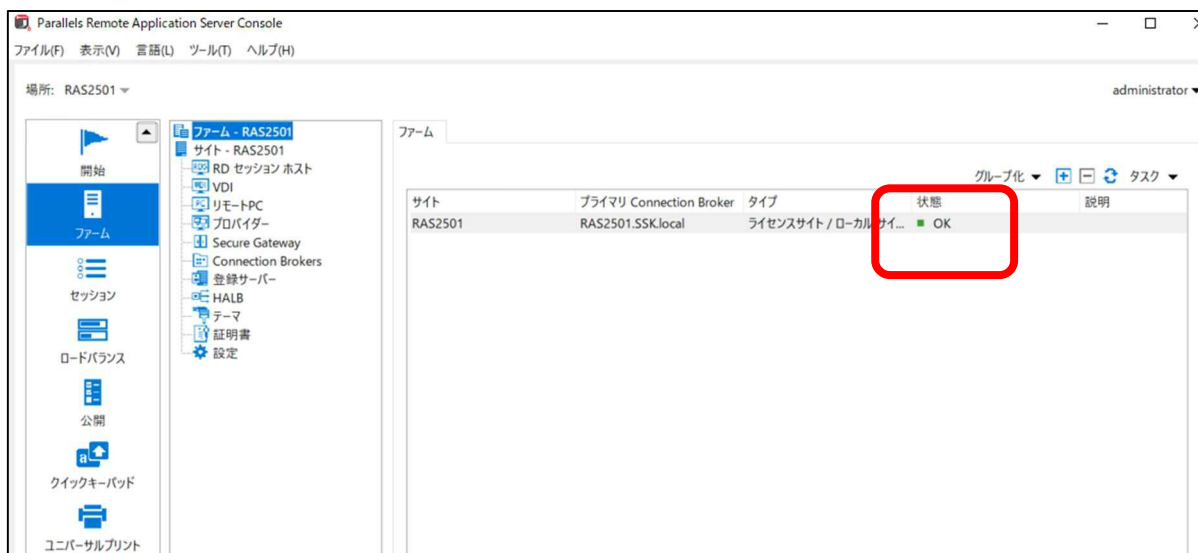
10. ウィザードが完了しましたら、「完了」をクリックします。



11. システムを再起動します。

RAS 管理コンソールから RDSH サーバーを追加する

1. 管理コンソールを起動します。メニューから、「ファーム」の表示に切り替え、操作リストから「ファーム」を選択して表示を切り替えます。「サイト」の定義のなかでサーバーの状態が、「OK」となっていることを確認します。



2. 次に、「ファーム」の表示に切り替え、操作リストから「RD セッションホスト」を選択して表示を切り替えます。画面右端にある「+」ボタンをクリックします。

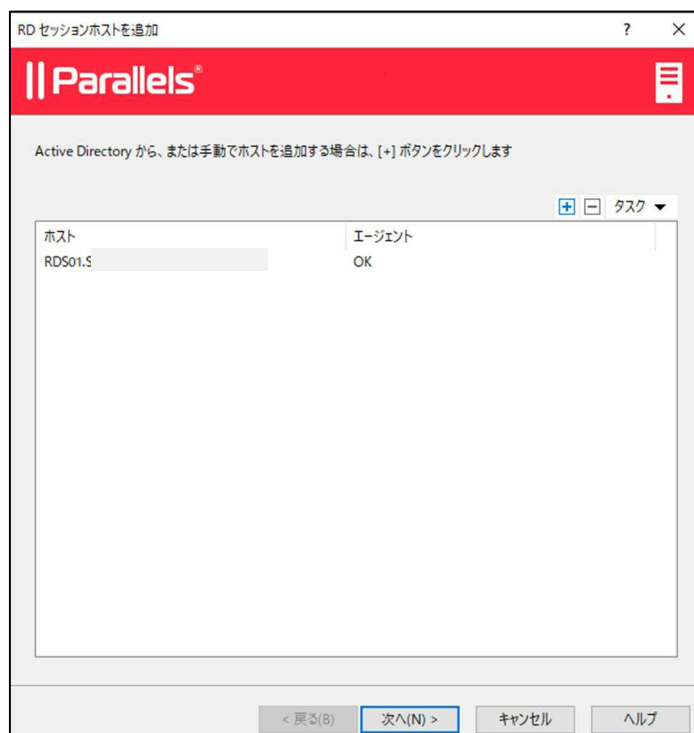


3. 「RD セッションホストを追加」の画面が表示されたら、「+」ボタンを押下して、「Active Directory から追加」を選択します。

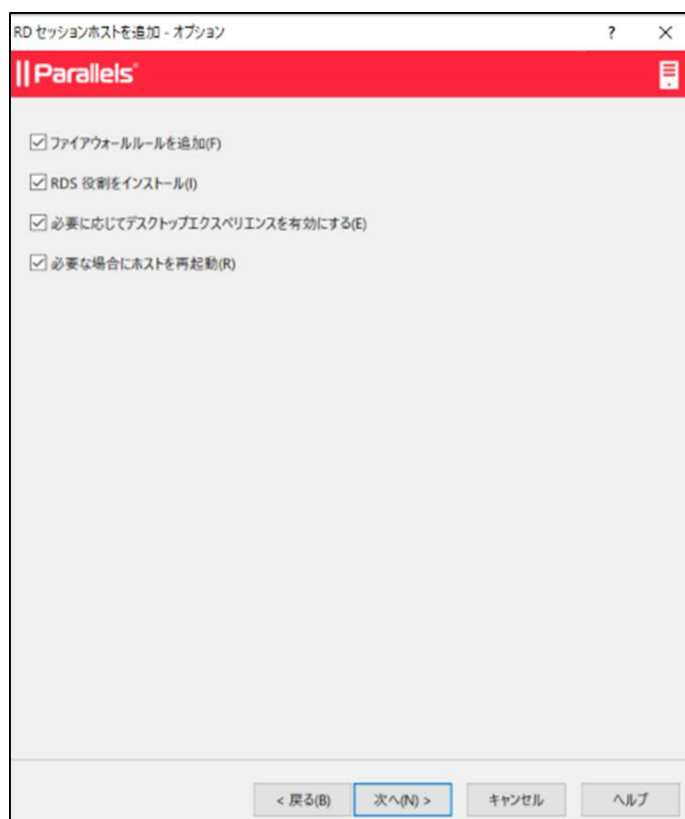


4. 「サーバー」欄に、先ほど RD Session Host Agent をインストールした Windows Server の IP アドレスまたはホスト名を入力し、「次へ」を押下します。
※もしエージェントのステータスが「OK」になっていない場合は、RD Session Host Agent が正しくインストールされていないと考えられます。再度インストールを行ってください。

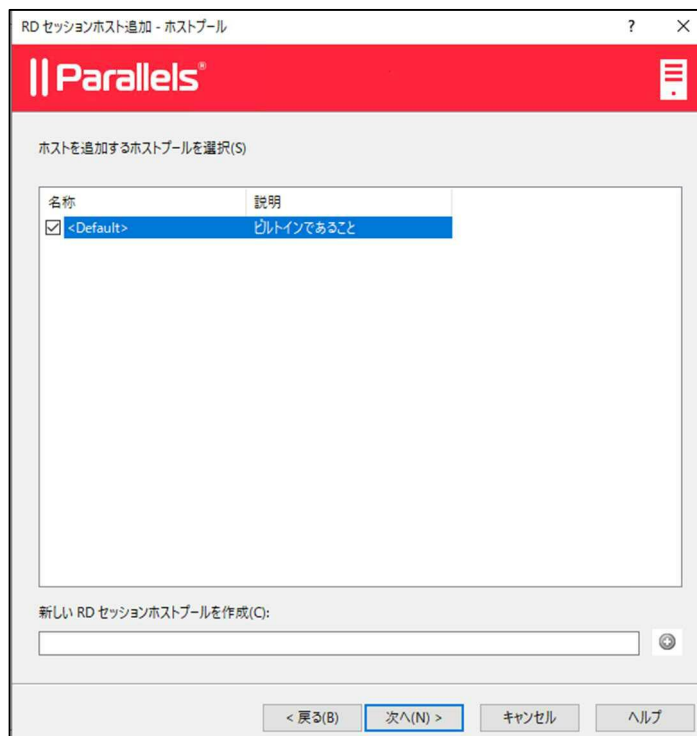




5. 次の画面で、すべてのチェックボックスが選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



6. グループの選択画面が表示されたら、デフォルトのまま、「次へ」を押下します。



7. 次の画面では、デフォルトのまま変更せず、「次へ」を押下します。
※リモートデスクトップ接続させたいユーザーまたはグループを選択したい場合は、「認証されたユーザー」の代わりに個別に追加してください。



8. 「ユーザープロファイル」の画面が表示されたら、デフォルトのまま、「次へ」を押下します。



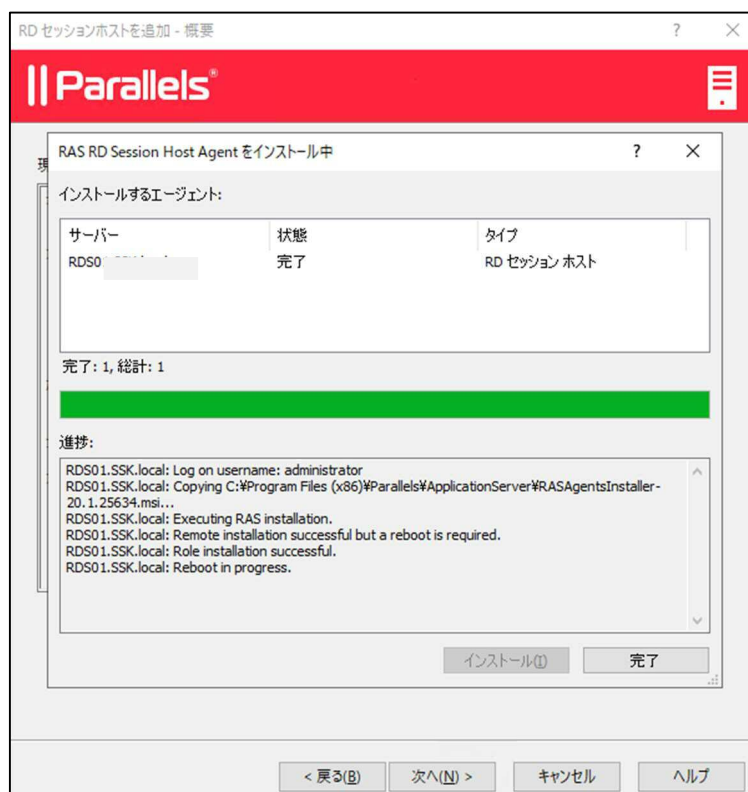
9. 「最適化」の画面が表示されたら、デフォルトのまま変更せず、「次へ」を押下します。



10. 「概要」の画面が表示されたら、「次へ」を押下します。



11. 「RAS RD Session Host Agent をインストール中」の画面が表示され、Windows Server が再起動されると、「完了」ボタンが表示されるので、「完了」ボタンを押下します。次の「レポート」画面でサーバーが正しく追加されたことを確認し、「完了」ボタンを押下します。



8. 「新しい設定を確定するには”適用(A)”を押します」のメッセージが表示されるので、コンソールウィンドウから、「ファイル」 - 「適用」ボタンを押下します。



9. コンソールウィンドウから、「ファーム」 - 「RD セッションホスト」 - 「ホストプール」タブの表示に切り替えます。「Default」定義の状態が「OK」になっていることを確認します。

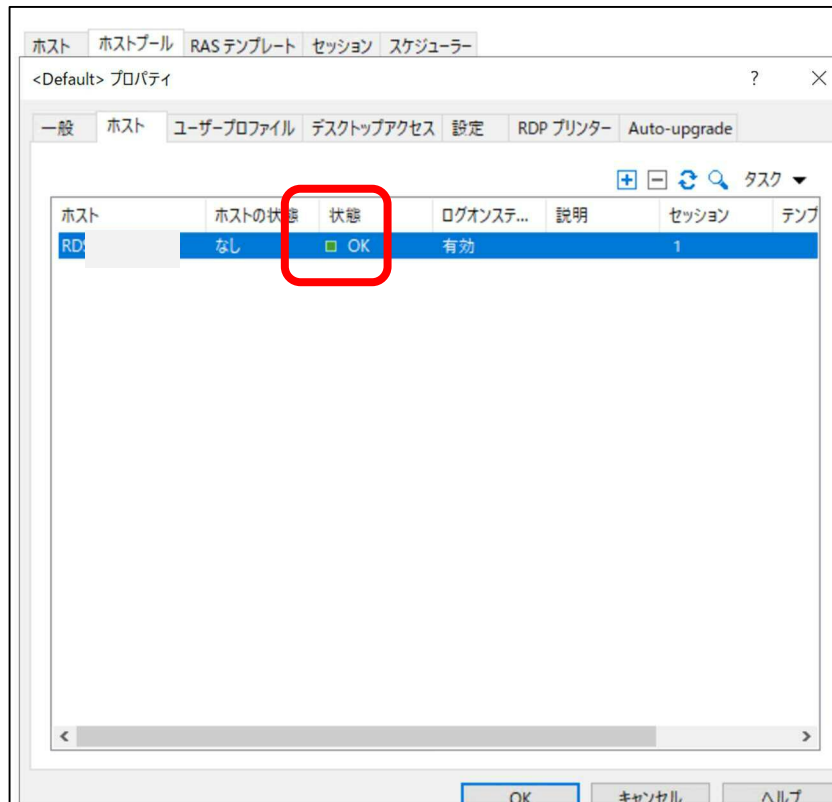
※初めて追加する場合は、最適化の処理が実行され、ステータスが「最適化を実行中」になり、時間がかかります。少し時間をおいてから、ステータスの更新を行ってください。



10. 表示されているリストを選択して、右クリックします。「プロパティ」を表示します。



11. 「プロパティ」を表示し、「ホスト」に表示を切り替えます。状態が「OK」であることを確認します。「OK」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。



デスクトップの公開設定

1. 管理コンソールを起動し、「公開」メニューを選択し、「追加」ボタンをクリックします。



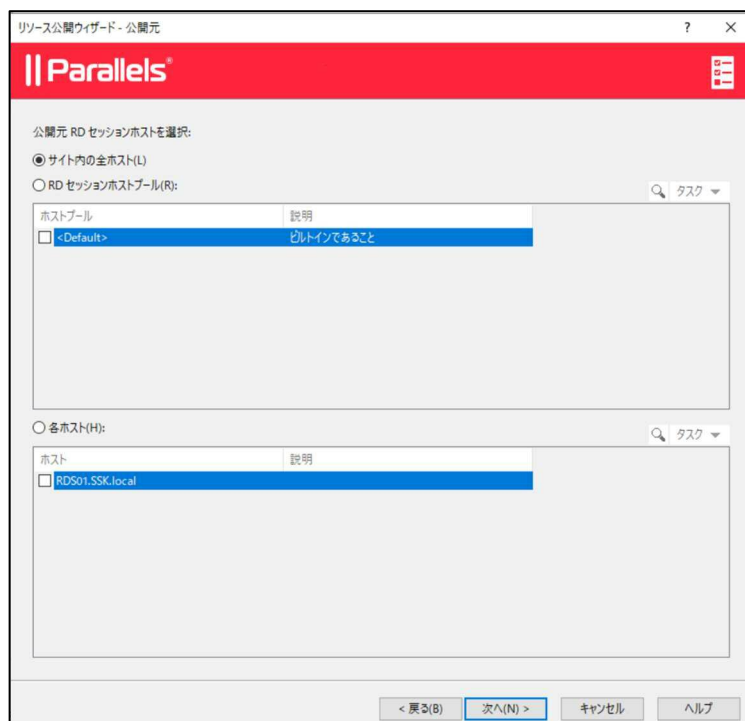
2. 「アイテムタイプ」の選択画面で、「デスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。



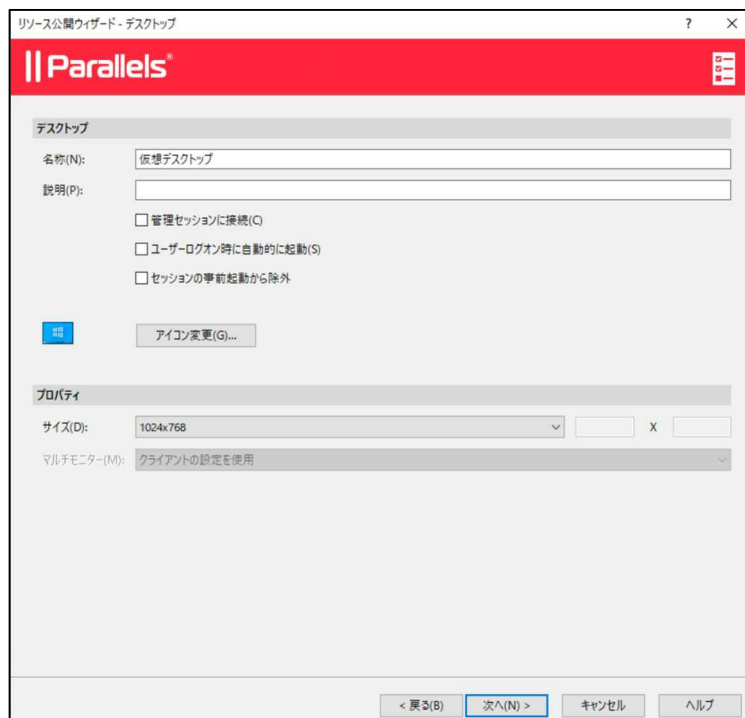
3. 「デスクトップタイプ」の選択画面で、「RD セッションホストデスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。



4. 「公開元」の画面では、デフォルトのまま変更せず、「次へ」をクリックします。



5. 「デスクトップ」の画面で、「名称」に適当な名前を入力し、プロパティ欄にて、リモート画面表示サイズを必要に応じて変更し、「次へ」をクリックします。



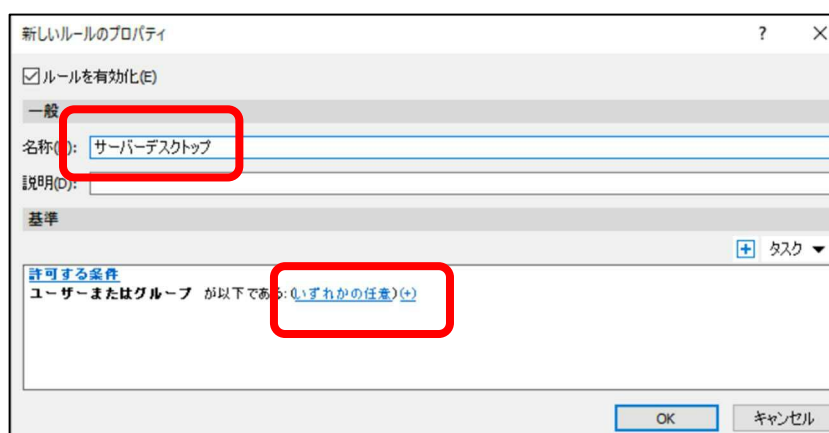
6. 「ステータス」の画面で、「有効」を選択し、「完了」ボタンをクリックします。コンソールより、「適用」をクリックします。



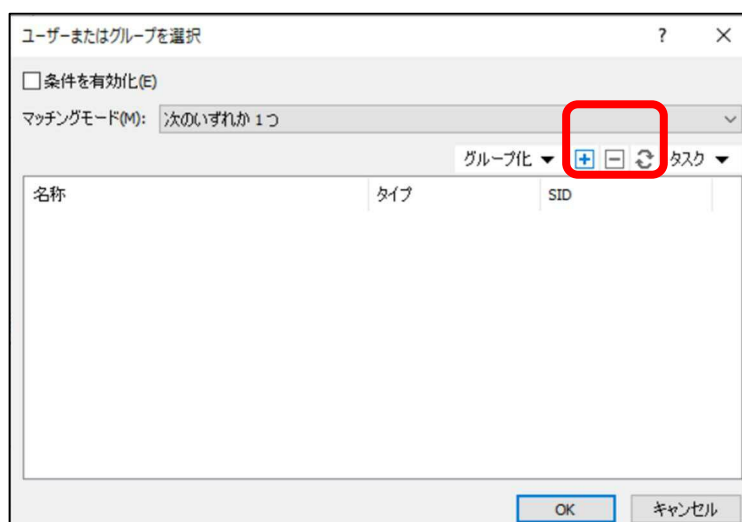
7. 「公開」メニューの「公開済みリソース」で、先ほど追加した公開設定を選択し、「フィルタリング」タブを選択します。次に、表示の右側にある、「+」ボタンをクリックします。



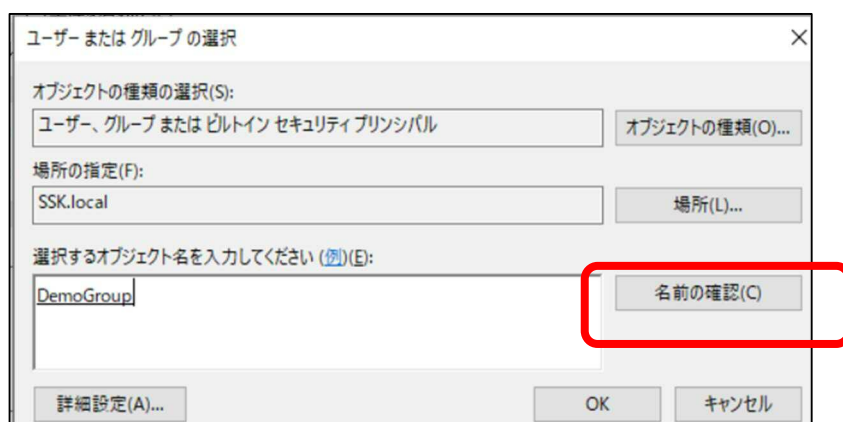
8. 「新しいルールのプロパティ」の画面が表示されたら、「Name」欄に適当な名前を入力し、「いずれかの任意」のリンクをクリックします。



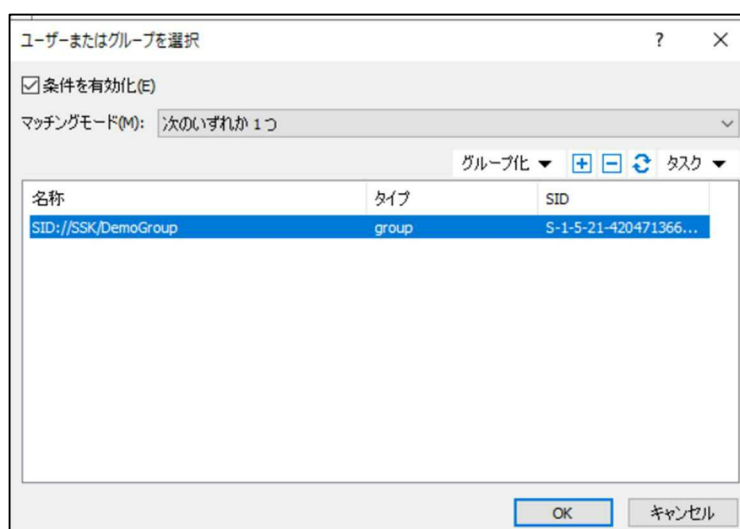
9. 「Select Users or Groups」の画面が表示されたら、「+」ボタンをクリックします。



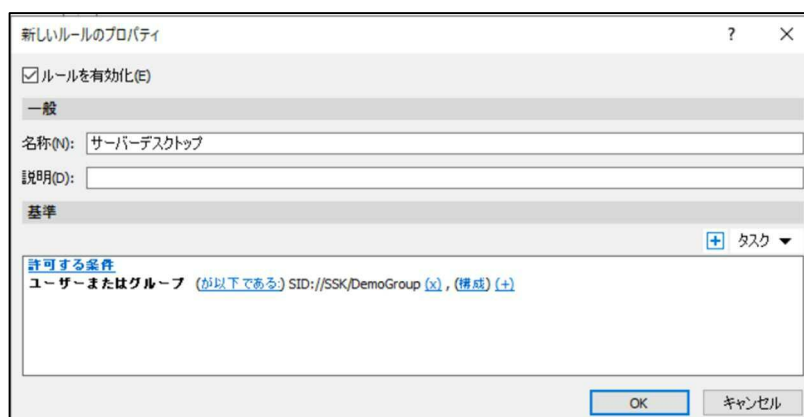
10. 「ユーザーまたはグループの選択」の画面が表示されたら、「選択するオブジェクト名を入力してください」の入力欄に、アクセスを許可するユーザー、またユーザーグループを指定入力し、「名前の確認」ボタンをクリックし、ユーザーを確定し、「OK」を押下します。



11. 「ユーザーまたはグループを選択」の画面が再度表示されたら、選択され条件が正しいことを確認し、「OK」をクリックします。



12. 「新しいルールのプロパティ」の画面が再度表示されたら、ルールが追加されたことを確認し、「OK」をクリックします。



13. 作成したルールが一番上に設定されていることを確認し、コンソールから「適用」ボタンをクリックします。



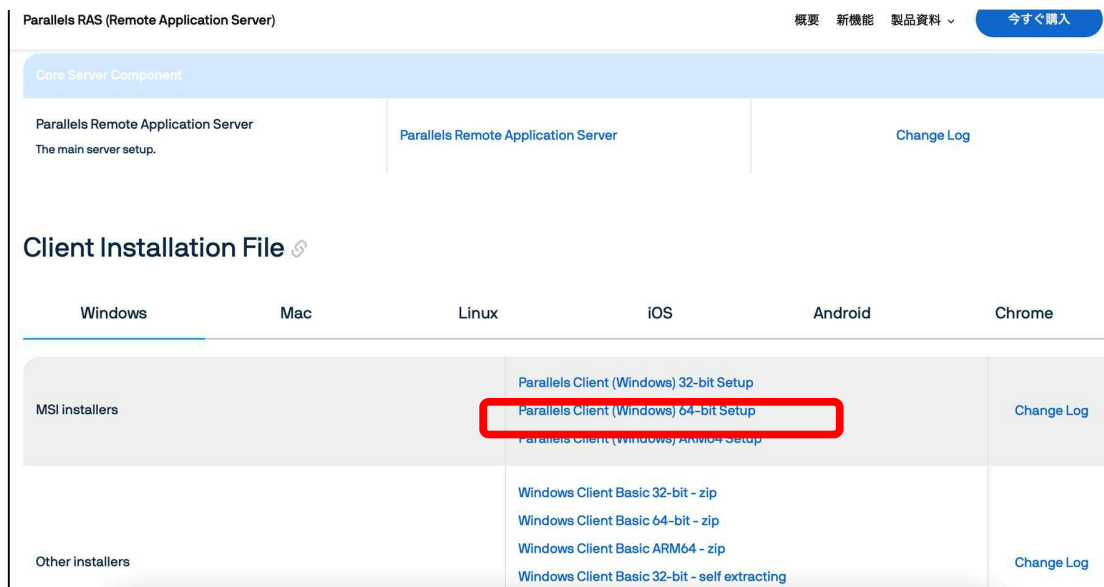
物理マシンからのリモート接続

Parallels RAS 環境へのリモートアクセスの手段は、接続元デバイスにインストールされた RAS Client モジュールのインターフェイスから接続先を登録してアクセスする方法と、Web ブラウザを使用して、RAS Secure Gateway が構成する RAS 環境へのログオンページからアクセスする方法と、2 種類存在します。

本ガイドでは、2 つの方法を解説いたします。

RAS Client for Windows モジュールインターフェイスからのアクセス

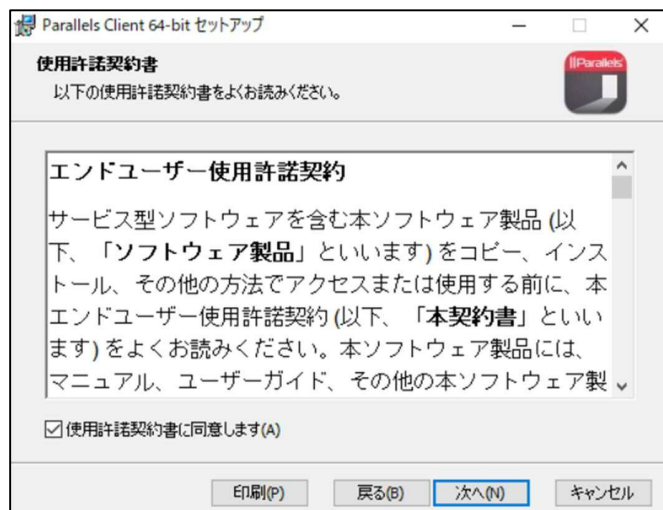
1. 接続に使用する RAS Client for Windows モジュールを、コーレル社のサイトからダウンロードして入手します。
<https://www.parallels.com/jp/products/ras/download/links/>



2. ダウンロードしたインストールファイルを、接続元 PC デバイスへコピーします。
インストールファイルを実行すると、「セットアップウィザード」が開始されます、「次へ」をクリックします。



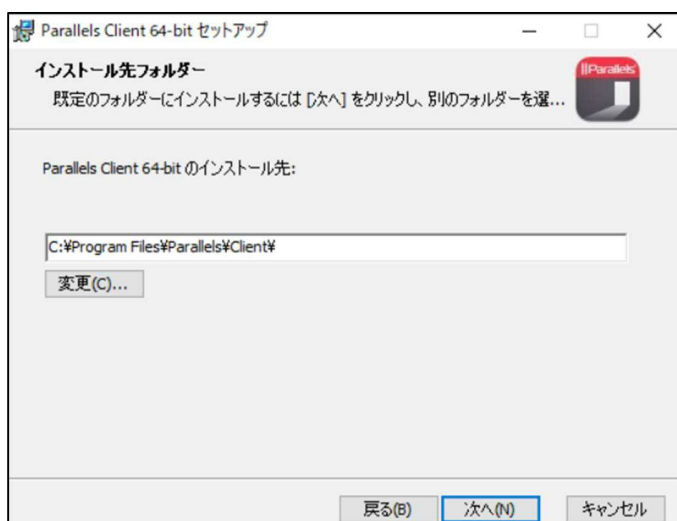
3. 「使用許諾契約書」の画面が表示されたら、「使用許諾契約書に同意します」をチェックし、「次へ」をクリックします。



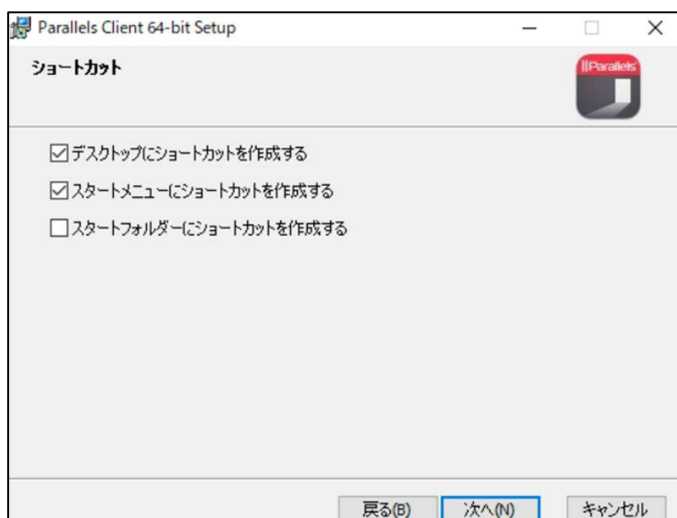
4. 「カスタマーエクスペリエンスプログラム」の参加は、「無効」を選択します。



5. 「インストール先フォルダー」の画面が表示されます、デフォルトのまま変更せず、「次へ」をクリックします。



6. 「ショートカット」の画面が表示されたら、デフォルト設定のまま、「次へ」をクリックします。



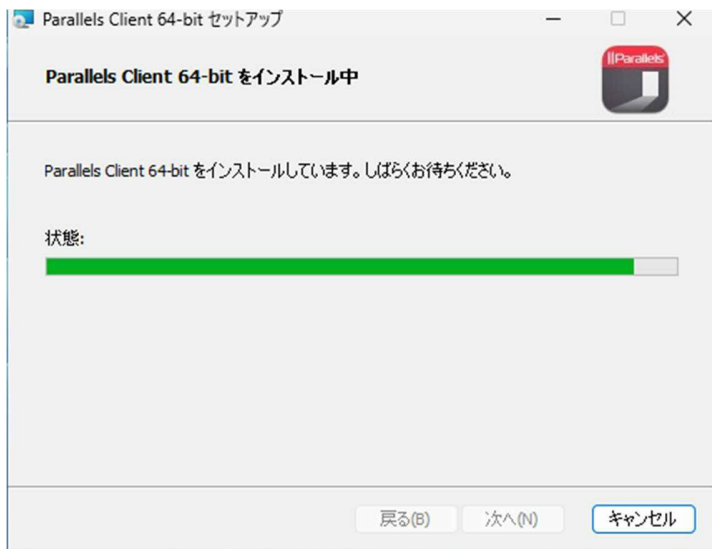
7. 「SSO インストール」の画面が表示されたら、「シングルサインオンコンポーネントは追加されません」をチェックし、「次へ」をクリックします。



8. 「インストール準備完了」の画面が表示されたら、「インストール」ボタンをクリックします。



9. 「インストール中」の画面が表示され、インストールが開始されます。「セットアップウィザードが完了しました」の画面が表示されたら、「Parallels Client の起動」にチェックを入れ、「完了」ボタンをクリックします。



- 「Parallels Client」が起動し、「RAS 接続がありません。追加しますか？」の画面が表示されます、「はい」をクリックします。



- 「新しい接続」の画面が表示されたら、RAS サーバーの接続先アドレス情報を入力し、「次へ」をクリックします。



- 次の画面が表示されたら、「詳細設定」のリンクを押下します。



13. 接続プロパティの画面が表示されたら、次の接続情報を入力し、「OK」をクリックします。

- 「プライマリ接続」：RAS サーバーの接続先情報(IP アドレス/FQDN 名)
- 「名称」：接続設定情報の名前
- 「ユーザー名」：ドメインに登録済みのログインユーザー名
- 「パスワード」：パスワード

※他の設定はデフォルトのまま変更しないでください。

接続プロパティ

接続 ディスプレイ 印刷 スキャン ローカル リソース

接続設定

プライマリ接続(P):

接続モード(C): ゲートウェイSSLモード

ポート(O): 443

セカンダリ接続(S)...

名称(N):

ログイン

☐ 自動ログイン(T)

認証タイプ(A): 認証情報

ユーザー名(E): demo01

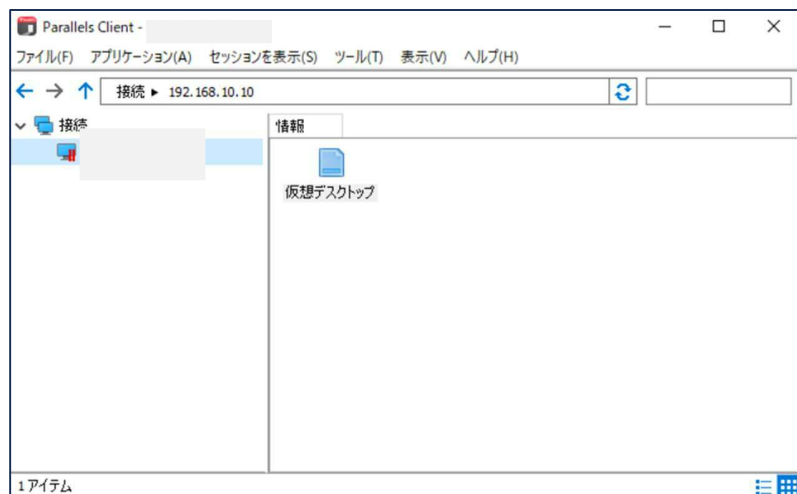
パスワード(W):

☒ パスワードの保存(V)

ドメイン(D): ssk

OK キャンセル ヘルプ

14. ログインを実行すると、利用可能な公開リソースへの接続アイコンが表示されますので、アイコンをダブルクリックしリモートセッションを開始します。



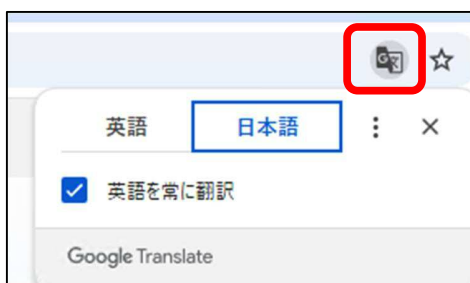
RAS Client for HTML モジュールを使用したリモートアクセス

1. RAS Secure Gateway コンポーネントを設定したサーバーアドレスに、Web ブラウザからアクセスします。
本資料では、RAS コネクションブローカーサーバーとなります。
アドレス指定 : `https://xxx.xxx.xxx.xxx/`

2. Web ブラウザのセキュリティ警告が表示される場合は、無視してアクセスを継続してください。

※RAS 環境では、Secure Gateway コンポーネントを経由したアクセスでは、デフォルトで、コーレル社が用意する自己署名の証明書を作成して利用します。そのため、Web ブラウザによってはセキュリティ警告が表示される場合があります。

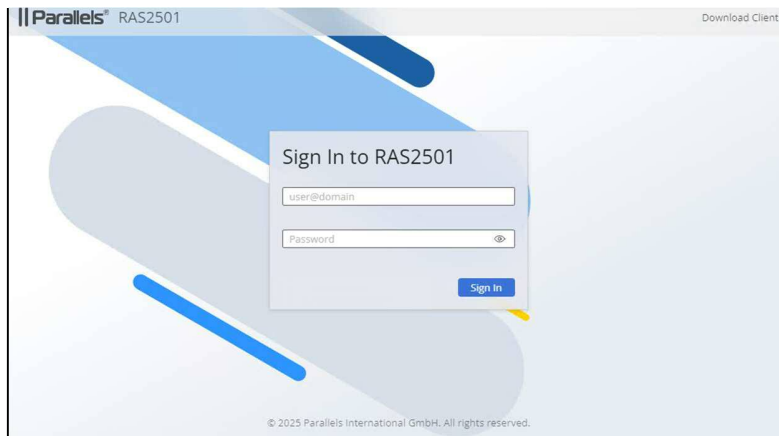
3. ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしますが、初期値では、英語の表記となります。ブラウザの表示言語を、日本語に変更すると、ページの説明が日本語に変換されます。



日本語に変換済みページ



英語表記のページレイアウト



4. 自動ログオン機能を使用するか確認のポップアップが出力しますので、「閉める」=「No」を選択します。

日本語変換ページと、英語表記

確認 サインインを求められる回数を減らしたいですか? 閉める 確認する	Auto login Do you want to reduce the number of times you are asked to sign in? No Yes
---	---

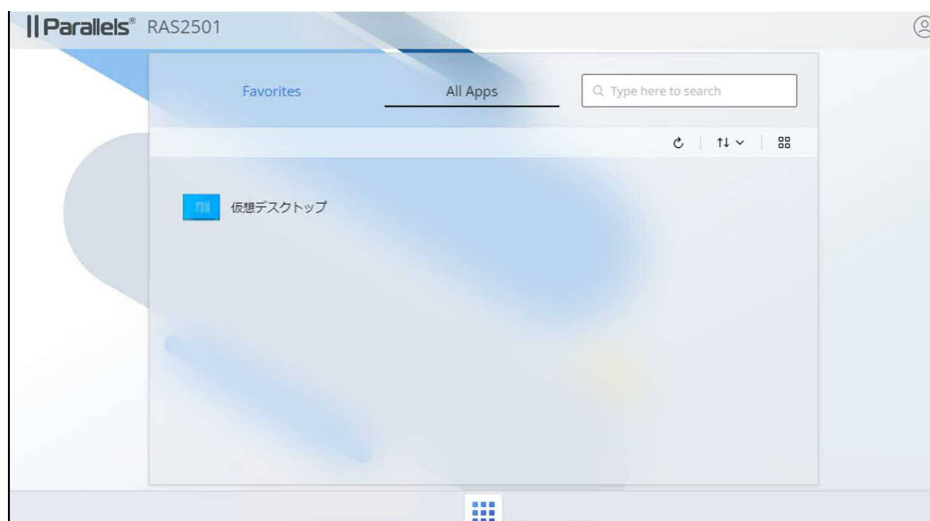
5. 「カスタマーエクスペリエンスプログラム」の有効化を促すメッセージが出力されます。「無効にする」=「Disable」を選択します。

Parallels カスタマーエクスペリエンスプログラム Parallels Client の改善にご協力いただくために、匿名の製品使用統計を自動的に共有してください。 このデータを使用して、お客様を特定したり、連絡したりすることはできません。気が変わった場合は、いつでも設定で権限を取り消すことができます。 詳細については、プライバシーに関する声明をご覧ください。 無効にする エネーブル	Parallels Customer Experience Program Please help us improve Parallels Client by sharing anonymous product usage statistics automatically. This data cannot be used to identify or contact you. You can revoke the permission in settings anytime if you change your mind. You can find more information in our Privacy Statement. Disable Enable
---	---

6. リモート接続に使用する Parallels RAS Client モジュールの選択メッセージが出力されます。
今回は、HTML 接続を使用しますので、「Web ブラウザを使用する」＝「Use Web Browser」を選択します。



7. ログイン後、利用可能なアプリケーションまたはデスクトップアイコンが表示されますので、アイコンをダブルクリックし実行します



8. リモート画面の表示を確認して、操作を開始します。画面右端には、HTML 接続時に利用できるメニューが表示されます。

